

Title	トラック輸送会社の成長要因分析
Sub Title	
Author	柴田賢朗(Shibata, Kenrou) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第610号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0610">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0610</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## トラック輸送会社の成長要因分析

本論文の目的は、未上場トラック輸送会社（区域トラック事業者）の成長企業と停滞企業の格差をもたらす要因を過去の経営者の経営行動及び意思決定に求め、解明することにある。

未上場企業であり、公表データが殆ど無いため、又あるにせよ信頼性の低いデータであるために、今回はトラック輸送会社50社の経営者（すべて社長）に直接面会し、インタビューを行ない、経営行動（設備投資、人材開発、情報化、差別化、環境変化に対するスタンス等）について聞いた。そして50社の中から売上高伸び率を被説明変数として取り上げ、9社を成長企業として抽出し、その成長要因分析を試みた。

その結果、成長企業になるまでは、個々の企業を個別に見てみると、経営資源や環境条件の違い等によって、様々な戦略展開が行なわれているが、これらの成長企業に比較的共通している条件を発見することが出来た。それは(1)安定した収入源があること（成長性の高い安定特定荷主を獲得している）。(2)付加価値の高いサービスを荷主に提供している。(3)コスト優位性があること。(4)荷主ニーズにマッチした設備、土地を保有している。(5)多角化を積極的に図っているの5つの特徴である。

成長企業がこれらの5つの要因をすべて兼ね備えているわけではなく、それぞれの成長企業では、経営者の経営理念や経営方針に基づいて、自社の経営資源を経営環境にマッチさせ、適宜、いろんな戦略を組み合わせることで事業展開を行ってきたのである。